

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100418		
法人名	沖縄医療生活協同組合		
事業所名	生協グループホーム安謝		
所在地	那覇市安謝250番地		
自己評価作成日	平成27年11月10日	評価結果市町村受理日	平成28年1月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://k.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4790">k.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4790</a>
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェンツ
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成27年12月8日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・生活の中で一人一人の役割や出番を作り、穏やかに過ごせるようにを理念に掲げ、これまで過ごしてきた過程を大切に、ご本人のできること、やりたいことを見つけ出し、ご本人の出番を多く作れるように働きかけています。また食事職員で作り旬の食材を取り入れ季節を感じてもらいながら温かい家庭の雰囲気を出すように努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は民家の多い静かな場所にあり、近隣の八百屋や業務スーパーを日常の買い物に利用し、地域社会とのつながりに努めている。事業所の理念は開設時に学習会をもち、本人本位の支援について話し合い、作成している。その思いや意義について、新人職員も利用者の思いを受け止めながら支援に当たっている。事業所は前年度の外部評価結果を踏まえ、サービスの質の向上に向けた取り組みを行っている。介護計画の一連のマネジメントが定期的に行われるようになり、プランの周知やケアの統一、共有が図られるようになっている。運営推進会議での利用者や家族、職員からの意見を反映させ夜勤の2人体制や、業務改善が行われている。又、研修会や学習会の機会が確保できるよう取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

確定日:28年1月5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念を基に個人目標を設定しその目標到達状況、課題等を面接を通して管理者、職員が確認している。が理念、目標が日々薄れてしまっている。	理念は開設時に地域密着の意義やグループホームの役割、自分がどういう介護を受けたいかを話し合い作成した。入職時には管理者が理念について説明し、年2回の個人面談や、ケアカンファレンス等で具体的なケアについて意見の統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・ほとんど毎日入居者の方と近所の八百屋や業務スーパーに買い物に出かけている。店員さんとも顔見知りになっている。又デイサービスと合同で誕生会や敬老会等の行事を計画し地域の組合さんに呼びかけ踊りなどの余興をお願いして参加している。	事業所は自治会に加入して、地域行事に利用者で参加したり、近隣のスーパーや八百屋での買い物に出かけるなど地域との関係づくりに取り組んでいる。高校生の動物セラピーボランティアや毎月2回のうたごえサークルの訪問がある。管理者は地域住民との日常的な交流を広げたいと考えている。	地域住民との日常的な交流を広げ、協力体制が図れるよう、地域へ積極的な取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・自治回に入会し、行事には入居者と一緒に参加している。年1回自治会の総会に出席し懇談会の中で介護で困っている方は相談に乗りますとアピールしているが、相談者なくアピール不足で活かされていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、状況報告行事予定やヒヤリハット等の報告を行い意見を頂く事でサービス向上に努めている。意見の中で家族参加の行事が弱いとの指摘が有り家族参加の観月会実施した。	前年度の外部評価を踏まえ、運営推進会議は年6回開催している。会議には利用者、家族、行政等が毎回参加し、事業所の活動報告や、ヒヤリハット、事故の報告、その後の取り組み、現状等が報告されている。会議で家族交流が少ないとの意見から、職員で話し合い、家族参加の観月会が実施されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議で那覇市の職員が毎回参加して事業所の状況報告等行っている。	運営推進会議やグループホーム連絡協議会の学習会の案内や情報、相談等、日頃より行政と連携を図っている。今年度は、マイナンバーについての説明や備蓄についての相談等が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束廃止マニュアルを作成し職員研修で読み合わせを行った。ホームが3階のためEVの開閉ボタンは操作が必要になっているが、行きたい場所に希望があれば外出し気分転換を図っている。	転倒のリスクの高い利用者の安全面について検討会議を行い、センサーを設置することで対応している。身体拘束についてや高齢者の尊厳等について学習会が行なわれ、身体拘束をしないための工夫を個々の計画に位置付け、職員の共有意識を図っている。	

沖縄県(生協グループホーム安謝)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修学習会を受け職場会議で、報告学習会を行った。今後とも定期的に勉強会を行う予定。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修学習会を受け職場会議で、報告学習会を行った。今後とも定期的に勉強会を行う予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・ご家族に理解できるように説明し利用料金や医療連携加算や介護職処遇改善加算については詳しく説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見箱を設置はしていますが、できるだけ直接職員に意見や要望が伝えられるように心がけている。また運営推進会議での家族からの意見や要望をミーティングで報告している。フィードバックノートを利用し要望・苦情・感謝等があったら記載しミーティングで報告している。	利用者や家族の意見は日常の支援の場面や訪問時に問いかけている。利用者の希望する場所への外出、夜間の一人勤務に対する不安や、病院受診の為に個人のリクライニング車いすの預かり、栄養面を心配し高カロリー食を希望する家族には、主治医と相談して要望をかなえるなど、反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回の職員ミーティングやケアカンファレンスにはできるだけ全員が発言できるように努め、少数意見でも皆で検討し運営に反映できるようにしている。	毎月の職員ミーティングや年2回の個人目標シートを基にした面談がある。職員の意見で夜間の二人勤務や、業務改善して昼食時間や休憩時間の確保をするなど、運営に反映させている。勤務の変更や希望等も管理者へ気軽に相談でき、希望に添えるよう調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・有資格者への手当で、通信教育(生協)修了者への半額負担、喀痰研修者への7割負担を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人作成の介護職員評価表をチェックし一人一人の力量を把握している。施設全体での毎月の学習会にはできるだけ多くの職員が参加出来るように声かけし、法人内やグループホーム連絡会の研修や学習会の回覧にして参加を呼びかけている。		

沖縄県(生協グループホーム安謝)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡会へ加盟し、管理者会議や研修を通して、職員同士が他の事業所と交流が持てるように努めている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前には実調を行い、自宅での本人の様子、ご家族との関係性、ADLを確認し入居にあたり不安や要望等にはしっかり耳を傾けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族の入居時の希望や不安、入居後の対応については、面会時に状況を報告し少しずつ不安が軽減できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ご家族、本人の不安や要望をしっかり確認し、本人に必要な支援を他のサービスを含めて検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者のペースに合わすように努め、できる方は、お茶碗洗い、お膳拭き掃除等手伝ってもらい利用者と職員が協力しながら日常生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・利用所の日々の状態や消耗品の依頼行事の連絡時や面会時に情報交換している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の慰問や公共施設や市場への外出やドライブを行い会話の中で出てくる場所にできるだけ行けるように努めている。	利用前のアセスメントで本人や家族から職歴や趣味等を聞き、個別の介護計画に反映させている。本人が希望する場所や公共施設への外出、外食で好きなものを選んで食べられるよう配慮するなど、地域社会との関係性継続にもつながるように努めている。	

沖縄県(生協グループホーム安謝)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の座席配置等を調整して入居者同士が孤立したり、衝突したりしないよう気配りし状況によって職員が仲介に入って和やかな雰囲気を作り出すようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・長期入院なり退所された男性の家族の方から死亡した報告有り告別式に参加した。また母親も入居したいとの希望有り順番待ち。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・関わりの中から言葉表情等で思いを感じる努力をしている。帰宅願望のある方は本人の意向を確認して自宅に電話を入れて安心感を与えたり、ゆっくり話を聞くようにしている。	職員は常に、「本人の思いはどうか」という視点で、利用者の話をじっくり聞くようにしている。利用者が不穏な状況になったとき、アセスメント等から理解したり、じっくり話を聞き、不安を解消する為の環境を変えるなど、工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時の基本情報に目を通すことと、家族面会時にコミュニケーションを密に取ることで本人の情報やご本人の事をよく知る事ができ信頼関係の構築になっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人一人の排泄パターン、精神状態の把握に努めスタッフ同士声かけしトイレ誘導したり、精神状態が不安定の方がいれば傍に寄り添うケアを心がけている。まだまだ出来ていないが、本人ができる事を探しだし「やりたいと思うような声かけ、促しに努め一緒に取り組めるように心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・定期的なケアカンファレンスでサービスの状況確認しケアの統一を図っている。その中でサービスの変更が出たらケアプランの変更を行っている。又本人やご家族には日頃の関わりの中で思いや意見を反映させるようにしている。	外部評価の結果を踏まえ、一連のマネジメント業務の改善を行っている。管理者、職員の役割分担が整い、定期的なケアカンファレンスやアセスメント、モニタリングが行われ、個々の介護計画に反映されるようになった。サービス内容の周知や実施記録等、統一を図るための個別記録の工夫もされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日頃の様子やケアの実践は1日の個人の介護記録にその都度記録に残し、申し送りや日誌で情報の共有に努めている。		

沖縄県(生協グループホーム安謝)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・病院受診などご家族が同行できない場合は職員で同行している。又介護タクシーの手配できない家族は職員で手配している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・自治会へ加入し、敬老会・グランドゴルフ大会等職員・入居者一緒に参加して交流している。地域の美容師の方に月1回訪問してもらい利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居時にご家族から希望のかかりつけ医を確認して入居後も本人、ご家族の希望病院、主治医を決めている。訪問診療を受けている方には同席し、医師との連携を図っている。病院受診では主治医に確認したい事項や情報を記載し提供確認している。	入居前からのかかりつけ医を継続利用している方が殆どで、全員訪問看護を受けている。定期受診時は家族が対応し、状態変化時は職員が同行し説明している。訪問診療時は主治医から居宅管理指導書を受け、職員へは即日周知情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・訪問ステーションとの契約に基づき、健康管理皮膚の観察、指導等を受けている。日頃と変化があれば訪問看護ステーションへ報告しし指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時は施設から情報提供書を提出し、入院中は担当のケースワーカーと連携を図り、病状の経過を把握し、時には面会に行き顔を見ている。退院が決まったらカンファレンスを設定してもらい情報把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・本人の状態をみながら、主治医、訪問看護と連携を図りカンファレンスの中で今後の方針について皆で確認を行っている。	終末期及び看取りに関する事業所の方針を明確に示し、入居時に本人、家族の意向を確認し同意書を交わしている。訪問診療や訪問看護の24時間の医療連携の体制を整え、急変時のマニュアルも整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・年に1回～2回は消防署の協力で、AEDの使い方、心肺蘇生法などの実施訓練を行っている。		

沖縄県(生協グループホーム安謝)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年1回は消防署に協力してもらい避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方の訓練を定期的に行っている。1回は自主訓練を行っている。	昼想定火災訓練を実施している。夜間想定火災訓練は2月に行う予定である。地域住民への参加呼び掛けを行うも参加は無かった。管理者は訓練を通じ、地域住民の協力は不可欠であることを認識しており課題と捉えている。災害時のマニュアルや連絡網は整備されているが水・食料等の備蓄は整っていない。	災害訓練を夜間想定も含め年2回以上の実施と共に、地域住民との協力体制づくりや、備蓄の整備が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・職員間で気になる言葉や対応があったら職場会議やカンファレンスなどで話し合い、一人一人を尊重できるように心がけている。	利用者を人生の先輩として敬い、誇りを損ねないケアに努めている。職員の気になる言葉かけや態度が見られた場合は、職員ミーティングで徹底的に話し合いを行っている。管理者も日頃から「もし自分がされたら？」と職員に投げかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・つじつまが合わない話でも傾聴する姿勢を大事にし本人の意思や自己決定ができるように「どうなさいますか？」と選択肢をだして決定しやすいように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・基本的な1日の流れはあるが、個々の体調などをみながらできるだけ、個別性のある支援を心がけている。利用者の望んでいるペースに合わせられるよう本人意思を確認して支援していきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・入浴時の着替えの準備は入居者と一緒に本人の好みの服を選んでいる。又入浴後の化粧(眉書きや鏡)を毎日本人が行えるように準備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・メニューは決めているが、日によっては入居者の食べたい物を提供する事もある。盛り付けや後片付け等できり方は職員と一緒にやっている	献立は職員で作成し、法人の栄養士にバランスチェックしてもらっている。利用者は一緒に野菜の下ごしらえや後片付けをしている。職員は利用者の苦手な食材でも美味しく食べてほしいと、日頃から調理法を研究している。『魚のムニエル』のメニューの際、魚嫌いの方にそぼろ風にアレンジし提供したところ『美味しい、これお肉？』と喜ばれた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・月1回の体重測定を行って体重管理を行い、白米の量のみ計量している。水分確保は各自のタッパーを準備し何時でも飲めるようにテーブルへ置いている。水分量はタッパーと湯飲みの量を測り1日の水分量を実施記録に記録して把握している。又栄養状態が悪い方は家族、主治医と相談しながら栄養ドリンクを処方してもらっている。		

沖縄県(生協グループホーム安謝)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・自分でできる方には声かけ、見守りを行っている。介助が必要な方には、付き添い、舌ブラシもやっている。磨き残しのある方については、職員で仕上げをしている。又入れ歯は、1日1回洗浄液に漬け置きして清潔を保持している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・各自の排泄チェック表から排泄パターンを把握し声をかけたり、尿意を訴えられない方はトイレ誘導時間を決めオムツ(パット)の使用を減らしている	排泄チェック表を用い、一人ひとりの排泄パターンやリズムを把握している。日中はトイレでの排泄を支援し同姓介助を基本としている。勤務体制により、異性介助も本人の同意を得て行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎日排泄チェックを確認し水分摂取いの促し主治医と相談し、緩下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・ケアプラン作成時に本人、ご家族と相談し、入浴回数曜日の確認を行っているが、その日の体調や本人の意思を確認し変更はその都度行っている。	週に3回の入浴を基本としている。「お風呂」という言葉に拒否を示す利用者には「膝(普段から痛みを訴えている)を見せていただけますか」「ついでに背中 of 皮膚の状態もみせていただけますか」等、本人が拒否反応する言葉を使わずに入浴を勧める工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・一人一人の睡眠状態を把握して日中の活動を促し、前夜に睡眠が充分とれなかった方や体調に応じて休息している。夏場は寝る前にクーラーを入れたり冬場は部屋が乾燥しないように濡れタオルをかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・各自の服用している薬をファイリングし薬の名前、効用、用法など記載している。毎日の薬は、1日1回の薬袋に日付、名前を入れ飲めない方には口に入れ飲み込むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・清掃業や洋裁業等入居者の職歴や経験などから本人の力を発揮できるように努めている		



沖縄県(生協グループホーム安謝)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日近所の八百屋や業務スーパーへ買い物へ出かけたり1階までちりを捨てに行っている。レク係りを中心に月1回は外出できるように勤めている。	食材の買い出しや、3階から1階ごみ捨て場までのエレベーター利用でのゴミ出しや、近隣の散策等、個別支援に位置づけて実施している。2名の方は自治会のグランドゴルフに参加している。利用者全員での外出プログラムで、フードコートで思いおもいにオーダーして外食する支援を行った。『海に行きたい』という要望があり個別に対応したこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・本人の安心や満足に向けて、ご家族の協力を得て小額のお金を持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・入居者の方が家族に電話したいと要望があった場合には番号を確認しながら本人にかけてもらい会話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や食堂の電気は天気によって明るさを調整している。廊下の壁には行事の写真や季節に合わせて飾りつけを行っている。	フロアにはベランダの大きな窓から光が差し込み十分な明るさがある。壁には利用者との季節の共同作品が飾られている。食卓はオープンキッチンで仕切りがなく調理時の匂いが広がり、五感からの刺激を感じる環境づくりをしている。テレビの音量設定も、場面と利用する方毎に変えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ホールには大、小のテーブルを設置し1つの場所で多くの人が集まれるように配慮している。テレビの前にソファを置いてテレビを見たり、外を眺めたりして過ごされている。廊下にもソファを置き1人でのんびり過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・施設でベットタンスは準備しているがそれ以外の寝具やタンスハンガーラック等馴染みの物を持ち込まれている。家族、孫の写真を飾っている	居室の入口ドアに、写真と本人が描いた絵が飾られ表札代りにしている。居室のベッドと箆笥とカーテンは事業所で準備している。利用者は家族写真や時計、カレンダー等馴染みの物を持ち込み家族と一緒に配置をしている。趣味の三線や、帽子を飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室の家具の配置やベットの手すりは本人の身体機能を把握し、実際に動いて貰いながら配置している。		